

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察できる自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察できる樹木観察園（旧林業試験場時代の約50年前に整備）があります。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

<黄葉する木々>

当センターの野外施設では間もなく木々の葉が色づき始めます。このあたりでは紅系よりも黄系に色づく木々が多く、鮮やかな黄色、淡く透明感のある黄緑、黄からオレンジの中間色など、様々な色合いが楽しめます。

野外施設でオススメの樹木の観察地点と、それぞれの特徴を紹介します。木々が最も美しい季節、ぜひ注目してみてください！



K1、N25付近

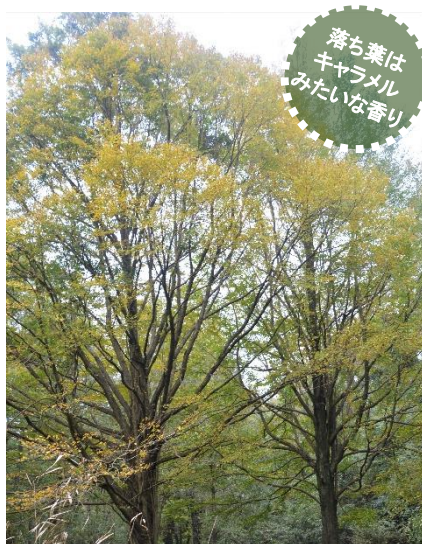
エンコウカエデ

- ◆ 猿ごう楓（ムクロジ科）
- ◆ プロペラのある種は風に乘って遠くへ飛散する
- ◆ 平地から山地の沢沿いに分布する

ヤマグワ / 山桑 (クワ科)

- ◆ 葉の形はバリエーション豊富
- ◆ 蚕の餌として多く植えられた

Y13付近



Y12～14付近

カツラ/桂 (カツラ科)

- ◆ すくっと伸びる樹形にハート型の葉が特徴
- ◆ 山地の沢沿いに稀に分布し、街路樹等にも見られる



Y26付近

コクサギ/小臭木 (ミカン科)

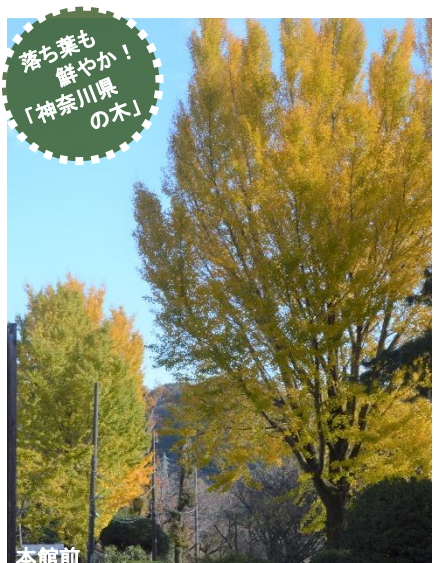
- ◆ 葉は柑橘系の香りで2枚ずつ交互につく
- ◆ 平地から山地の沢沿いなど湿った場所に生育する



M7付近

ケヤキ/樺 (アサ科)

- ◆ 平地から山地の沢沿い街路樹にも見られる
- ◆ うろこ状にはがれる樹皮の隙間は虫の越冬場所に！



本館前

イチョウ/銀杏 (イチョウ科)

- ◆ 実(ぎんなん)はタヌキなど野生動物の食糧になる
- ◆ 中国原産。社寺や街路樹として植栽される



＜たたら沢の生き物紹介＞

自然観察園は、谷戸（やと）といわれる沢に沿った谷あいの地形です。園内には非公開エリアを源流とし、斜面からしみ出した湧水が集まってできた「たたら沢」という小さな沢が流れています。沢は自然観察園を出ると七沢川、さらに玉川へとつながっていきます。

谷戸にあるいくつかの池の水もたたら沢から引き入れていて、下流で再び沢に戻りますが、流れのある沢では生息している生き物も池とは少し違ってきます。よく見つかるのはサワガニやモクズガニ、オニヤンマのヤゴなどですが、今回は、たたら沢を代表する魚を紹介します。



Y34付近



Y4付近



アブラハヤ

明るいところではわかりにくいですが、体側には黒いラインが出ます

アブラハヤ（コイ科） 県RDB：準絶滅危惧種*

河川の上流域から中流域にかけて生息しています。体長は15cmほどになり、雑食性で藻類や小さな昆虫などを食べています。うろこがとても小さく、触るとぬるぬるとしているため、この名前がついたといわれています。

たたら沢では滝つぼのようになった深みにまとまっているようで、沢を上からのぞいただけでは見つかりません。



ホトケドジョウ

たたら沢では茶褐色に小さな黒点が散在するタイプが多いようです

ホトケドジョウ（ドジョウ科） 県RDB：絶滅危惧ⅠB類*

日本固有種で、谷戸の源流域や湧水のある水路などに生息しています。体長は8cmほどで、水生の小動物などを捕食します。体色や斑紋は地域差や個体差があります。

アブラハヤよりも湧水域を好む傾向で、まさに谷戸を代表する魚です。泥の中に潜るふつうのドジョウに比べ水中をよく泳ぎ、流れの緩やかなところを泳いでいる姿が見えることもあります。

* 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006

準絶滅危惧種：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ」に移行する可能性のある種

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

たたら沢のような湧水の環境を好むこの2種は、かつては県内各地でふつうに見られる身近な魚でしたが、開発等によって生息環境が失われつつあることで、減少している可能性があるといわれています。谷戸の斜面は崩れやすく、沢沿いはうっそうとした草木に覆われ、人にとっては歩きにくく、管理も大変ですが、豊かな生き物たちを育む環境なのです。

ホトケドジョウは本館の展示水槽でみられます。野外ではなかなか見られない

寸詰まりのかわいらしい姿を観察してみてください。



4対8本のひげがあります。



＜鉄バクテリア＞

沢を見ていると、流れのないところで油のような膜や赤褐色の沈殿物を見かけます。これは鉄バクテリアという土中にいる細菌のしわざ。水中の鉄イオンを酸化させエネルギーを得ることで、サビのような沈殿物を生成します。



傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

・・・● 2021年4～6月の報告 ●

救護実績

【救護件数上位5種】

【主な救護原因】

種名	件数
スズメ	33
シジュウカラ	15
ムクドリ	15
ツバメ	10
イソヒヨドリ	6
カルガモ	6
キジバト	6
メジロ	6

鳥類の原因	件数
ネコなどに襲われる	21
ガラス窓などへの衝突	11
誤認保護	8
交通事故	6
粘着剤に絡む	6
釣り針・釣り糸や防鳥ネットに絡む	2

哺乳類の原因	件数
草刈りによる巣の破損と親の死亡	4
疥癬症(かいせんしょう)	4
交通事故	1



←草刈りによる巣の破損と親の死亡により持ち込まれたカヤネズミの赤ちゃん4頭

※適正な収容個体数を超過しているため、2021年6月22日午後～7月26日まで受け入れ休止

＜釣り針・釣り糸の被害にあった海鳥＞

海岸にある水路の中で溺れていたところを救護されたウミネコ。救護された時は、左翼に釣り糸がグルグル巻きになっていたため、救護された方の手で外せるところは切り取っていただきました。ただ、口の中までは取りきれなかったということで、翌日持ち込まれることに…。

受付No. 210167
種名 ウミネコ（カモメ科）
受入日 2021年8月11日
救護場所 茅ヶ崎市内
救護原因 釣り針・釣り糸
状態 口から釣り糸が出ていて瀕死の状態

受け入れから約2時間後、残念ながら亡くなりました。口の中から出ている釣り糸の先を確認するために解剖してみると…、糸は約36cmも続いていて、胃の中に到達。糸の先には釣り針が2個ついていて、そのうちの1個は胃にしっかりと刺さっていました（図1、2）。



図1 口の中から出ている釣り糸

釣り糸の端

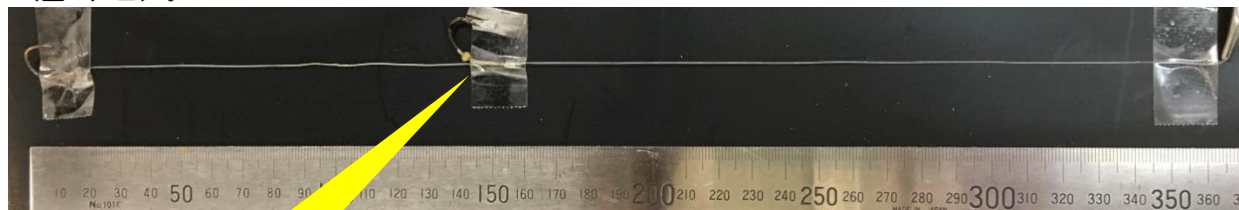


図2 身体の中から出てきた釣り糸と胃に刺さっていた釣り針

＜お願い＞

今回のように救護されるケースはほんの一部で、私たちの何気ない行動が原因で、他にも動物たちが犠牲になっているかもしれません。

釣り糸や釣り針を見つけたら、回収しましょう。また、釣り糸や釣り針の「処分方法」については、各市町村によって異なります。ホームページなどで確認してから適切に処理してください。

同じような被害をなくすために、皆様のご協力をお願いいたします。





↑受入れ時
右翼が回転して翼の内側が見えている状態(体重78.7g)

<珍鳥を受け入れました>

県内では夏鳥として稀に観察されるアカショウビン。当センターの救護記録によると、1990・1991・1992・2009・2010年の各1羽に次ぐ6例目となります。

今回は、右翼を骨折してくるっと回転した状態で持ち込まれた事例を紹介します。

受付 No.	210120
種 名	アカショウビン (カワセミ科)
受 入 日	2021年6月12日
救護場所	秦野市内
救護原因	不明
状 態	右翼(上腕骨)骨折
県RDB(※1)	繁殖期・絶滅危惧種Ⅱ類
溪流沿いの森林に渡来するが、森林伐採や溪流の破壊などにより生息地は減少傾向にあり、絶滅の危機が増大している	
※1県RDB「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」p254(抜粋)	

アカショウビンってこんな鳥！

目撃！



↑腰(中央)にある
青色のライン



足の裏側からみると、
指と指の間がくっついて
いるのがわかる

←短い舌はハート型に見える



足の表側↑

さらに ふかぼり♪

- 間近で聴く警戒音は、耳が痛くなる程けたたましい声(涙)
- かまれると、とても痛い!!
救護する時は、かまれないように注意しましょう。タオルで覆うと少しは痛くないかも？



アジのペリット



ザリガニのペリット



ゲツゲツゲツゲツ!
ゲツゲツゲツゲツ!

←アメリカザリガニ(約5cm)、セミ、コオロギ、魚などをエサとしてあげると、翌日には左のようなペリットを吐き出します。



右翼を失い野生復帰できなくなった現在
(体重約90g)

ペリットとは、骨や殻など消化できないものを吐き出したもののこと